

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970100174		
法人名	株式会社シティ・プランナー		
事業所名	フレンドニヶ辻		
所在地	奈良県奈良市尼辻西町8-10		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2970100174-00&PrefCd=29&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誰でも長生きすれば認知症になる可能性が大いにあります。認知症になるとできない事ももちろんありますが、できる事もたくさんあります。手助けがあれば、その人らしさを生かしながら社会生活を継続できると信じてチームで取り組んでいます。スタッフは見守ることを心がけ、入居者様の自発性を尊重しています。大家族のような生活の中で、自然に役割分担ができ、入居者様の現有能力を生かしたその人らしい生活ができるように、努力しています。積極的に地域との交流をはかり、夏祭り等地域の方々が参加され、入居者様とのなじみの関係がますます深まっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近鉄の駅から徒歩1分のとでも便利などところにある。建物は、広い中庭のある古い民家を活用し、とても落ち着きがあって、利用者は懐かしい昔の家に帰ってきたよう感じがする。すでにスプリンクラーの設置や耐震化とともに、生活しやすいようにバリアフリー化も行われている。職員は、利用者一人ひとりの個性を尊重し、利用者の得意なことや残存能力を発揮できるように支援している。地域に調和し、大家族のようなどとも家庭的な雰囲気のある事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+) + (Enter-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に運営理念を掲げいつも目につくようにしている。職員会議等でこの理念がもと常に意識の統一を図り日々の介護で実践している。	「心と身体に寄り添い、安心できる生活をお手伝いする」「尊厳を守り、自立を支援する」「地域に開かれたホームを目指す」ことが理念に掲げられている。職員は理念を共有し、日々実践できるよう個々の能力をワンランク上げることを今年の目標にしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に入居者の方々も一緒に参加させていただき交流をはかっている。グループホームの夏祭り避難訓練などに参加していただきグループホームの活動や意義を理解してもらっている。	自治会の消防訓練や夏祭りに参加したり、事業所が催す夏祭りやクリスマス会に近所の方も招待し地域との交流を図っている。回覧板を回したり、事業所前の清掃時などで近所の方と挨拶を交わすなど交流している。また、大正琴やフラダンスなどの地域ボランティアを受け入れ、利用者の楽しみとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者らの暮らしに役立つことがないか話し合い取り組んでいる。ボランティアの方が来るときなど地域の方々にも参加していただいている。近隣の中学校から体験学習にきている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、地域包括支援センター、家族にも参加して頂き2ヵ月ごとに開催している。意見交換をサービス向上に生かせるように会議議事録やスタッフ会議で職員全員に報告している。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族代表、利用者などが参加し、2ヶ月に1回開催している。外部評価結果を会議で報告している。自治会組長から近隣住民のために認知症予防運動の講習をホームで開いて欲しいという要望などもあった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	奈良県にはグループホームの現状を報告したり指導してもらっている。また奈良市保護課での受給の方を市と連絡を取って受け入れている。	介護保険の更新時に市の介護保険課と話し合ったり、運営推進会議の議事録を送ったりしている。生活保護の利用者の方も受け入れており、市の保護課と連絡を取り合い、連携して支援している。また、中学校や養護学校の生徒の職場体験実習を受け入れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束について周知しており、拘束のない暮らしを実践している。	職員は、法人の新人研修で身体拘束について学習している。事業所の理念である「利用者の尊厳を守る」ためにも、身体拘束のない生活を支援している。玄関は、すぐ横に近鉄の駅があり、踏切もあって危険なため、施錠をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修を通じて学びその内容を職員に説明・教育している。事業所中で虐待行為をしたことはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修を通じて学びその内容を職員に説明・教育している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書利用契約書文書で説明している。説明にあたっては、一方的にならないように、理解いただけなかった疑問点はないかを確認しながら行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いは日々のコミュニケーションの中で聞くようにしている。それらをスタッフ会議で話し合い入居者の思いにこたえるようにしている。ケアカンファレンスや来訪時には必ず面談をし意見をきく機会を設けている。	家族から要望等は主に面会時に聴いている。半年に1回、ケアプランの更新時にはカンファレンスを行って、意見を聴き、反映できるよう努力している。面会に来られない家族の方には、介護計画に対する意見書を返送してもらっている。玄関には、意見箱も設置している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には毎年目標を持たせ面談を行い、苦情不満などをくみ取りサポートしている。職員の意見や要望を聞いたり会議の中で話しあっている。	月1回、ケア会議を行い、職員が運営に関して意見や知恵を出し合っている。職場内で、日ごろから職員は意見を出しやすい雰囲気があり、管理者もそれを吸い上げる努力をしている。また、職員は毎年目標参画シートを作成し、個人の目標とチームの目標を立て、管理者が個人面談を半年に1回行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員からの相談を受けている、重要性がある場合はマネージャーにもアドバイスをもらっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ専用のチェックリストを用いて、OJTをすすめている。OJT指導員も指導にあたって職員のスキルアップを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	普段から他施設だけでなく、近くのデイサービスにも足を運び、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居についての問い合わせがあった場合、初回面談時には利用を前面に押し進めるのではなく、本人の困っていること、不安なこと要望をよく聞くよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時には利用を前面に押し進めるのではなく、家族の困っていること、不安なことをよく聞くよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に相談があるときの殆どはグループホーム利用が前提であるが、本当にグループホームでいいのか、一歩引いてみるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物の片付けを手伝ってもらったり、花の水やりをやってもらったりしている。また、植物の育て方折り紙のおりかた、食事のメニューなど教えてもらうようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡はもとより、1カ月に1回はスタッフからの一言通信(ご様子をまとめたもの)・写真・笑顔便りを送付し、関係の維持向上に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等なじみの人との交流を支援している、なじみの店や場所へスタッフと出かける時もある。地域の高齢者学級や編み物教室へ通う方もある。	家族だけでなく、友人が訪問することがある。馴染みの美容院に出かけたり喫茶店に行くことを支援している。また、家族とお墓参りに行ったり、自宅に外泊する方もいる。また、10年近く居住する利用者が、事業所周辺の場や人との馴染みの関係ができてきた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大家族のような生活の中で自然に役割分担ができていてその人らしく生活されている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院から回復が見込めず退去された方がいるが、家族様の許可を得てスタッフがお見舞いに伺っている。入居者様と一緒に中庭の花で手作りしたアレンジメントフラワーをお渡ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意見や想いに沿った暮らし方をして頂いている。その方の生活歴や習慣も掘り起し、その人らしい個性を尊重している。外出時には一緒に化粧をして、本人が選ばれた外出用の服に着替えて頂く。	職員は日々の生活で、利用者の食べたいものや行きたいところ、着たい服などを聴き、実現できるよう努力している。花の好きな人には、花を育ててもらったり、思いに沿った支援をしている。以前行われていた気付きメモを復活させ、思いの把握に活用されるとさらに良いと思われる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを作成して、生活歴・趣味・好みを把握している。ご家族様やご友人からの昔のエピソードを聞き出してケアに活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々の様子を記入しており、スタッフ間で情報共有している。ケアカンファレンスを行い申し送りしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から入居者様の意見や要望を聞き、家族様の面会時には積極的に意見をうかがうようにしている。ケア会議で話し合って情報を共有し介護計画を作成している。	事前に利用者や家族の思いを聴き、ケア会議で職員が意見を出し合っ、介護計画を立てている。3ヶ月に1回、モニタリング結果をまとめ、6ヶ月に1回更新している。介護計画の内容が、利用者のADL中心になっている。	アセスメントシートが病気やADLが中心となっている。アセスメントシートの生活歴や生きがい、趣味や特技などの欄を充実させ、それを活用して笑顔が増えるプランもあればよいと思われる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を用意して日常生活の様子や、バイタル食事摂取量排泄状態ドクター往診時の記録をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて家族と相談し家族のかわりに通院介助や受診の便宜を計っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回公民館の歌の会に参加している、近所の方が折り紙のおり方を教えにきてくれている、地域交流の中で入居者様の豊かな暮らしを送れるように努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回内科往診を受けている。精神科眼科等の受診が必要になった場合も家族に連絡を取り希望があれば受診するようにしている。	事業所の協力内科医が月2回、往診している。精神科や歯科、眼科などへは基本的に家族が付き添うが、緊急時や家族が付き添うことができない方は、職員が付き添い受診している。また、看護師が週1回訪問し、健康管理に努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の定期訪問と24時間の連携体制により利用者・職員は安心して相談できる往診医とも密接に連携がとれている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師や管理者が定期的に訪問し状態の把握に努め退院時に家族医療機関フレンドとのカンファレンスを行えるように関係づくりをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定し、重度化終末期に入る前には往診医看護師職員がご家族とカンファレンスを行い方針を決めている。	利用者が重度化した場合は、かかりつけ医などと相談し、利用者の安全を確保するため、医療機関に入院し適切な医療を受けることが基本になっている。事業所内での看取りの事例はない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しケア会議の中でも話し合い職員に周知徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練を行っている、地域の避難訓練にもスタッフと一緒に入居者様も参加している、地域の方の意見で取り入れられることは取り入れている。	年2回、利用者も参加して避難訓練を実施している。地域の方にも訓練を見学してもらい、意見を頂いている。また、地域の防災訓練にも参加して協力関係を築いている。スプリンクラーの設置や耐震工事と合わせて、オール電化を行った。食料や水の備蓄も行っているが、今後地域のために役立つための準備を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の個性・人格を尊重した言葉をかけ対応をし入居者に共感するようにしている。 OJTを活用し職員の意識を高めている。	居室にはいるときには、必ず利用者の了解を得ている。トイレ誘導のとき、難聴の方には周りの方に配慮しボードに書いて伝えるなど工夫している。 みんなで体操やレクリエーションをすることも、強制はしないで利用者個々の思いを尊重している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択・献立の希望をお聞きしている、洋服を見せて選んでもらったりテレビやチラシを見て買い物に出かけたりしている。ご本人の希望や状態などを見て声掛けしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務は決まった時間に縛られるのではなく入居者様のペースに合わせて行っている。居室で過ごされている方もいるが定期的に職員が声を掛けに行くなどしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望による髪型や服装にしているがいつもおなじにならないように声掛け支援している。理髪に関しては訪問美容される方と家族様と一緒に行きつけの美容室に出かけられている方がいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は入居者の好みに合うもののあるものになっている。季節感も重視し、また昔ながらの行事食のある食事内容や個人の誕生日祝いの食事もしている。食事の準備や片付けも職員と一緒にしてもらっている。	いろいろな食材を買い置きし、利用者の要望などを聴きながらメニューを考えている。利用者も調理の手伝いや味付け、盛り付けなど、得意なことやできることを手伝っている。また、出前を頼んだり外食に出かけたりすることもある。お誕生日会や季節の行事などを行い、大家族のような家庭的な雰囲気がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー、必要水分量、栄養バランスをおよそ把握している。必要な水分を摂取できるように好みの飲み物やゼリーを作り支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	良後の歯磨き誘導と必要な方には介助を行っている。痛みや治療が必要な場合には家族に連絡を取って受診の支援をしている。入歯は夜間消毒液につけて保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作り、昼夜のトイレ誘導を行っている。できるだけトイレでの排泄を促している。トイレ誘導介助はさりげなく行っている。特に失禁時には周囲の方々にも気を配り声掛けに考慮し、さりげなく誘導している。	トイレは2ヶ所あり、必要な方には夜間ポータブルトイレを設置している。排泄の支援が必要な方は、適切なタイミングで声掛けを心がけている。事業所を利用するようになり、排泄が自立した方も多い。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者様が多いので、ヨーグルト、果物、野菜等の摂取に努めている。定時にトイレ誘導している。できる方は散歩と運動を毎日している。中庭を見ながら廊下を歩いてもらっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく2日に1回のペースでゆっくり入浴して頂けるようにしている。プライバシーに配慮しコミュニケーションを楽しみながらゆっくりリラックスして入れるようにしている。	基本的に週3回、午後の時間帯に入浴できるよう支援している。湯船に入ることができない方は、シャワーチェアで対応している。浴室や脱衣場を暖かくして、リラックスして入ることができるようにしている。また、いろいろな入浴剤を入れて香りや色を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩・掃除・食事作り・体操・レクリエーションなど日中の活動を通じて個々にあった生活のリズムを作るように配慮している。必要なときには職員が個室に付き添いゆっくり話しながら休憩してもらう。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を勉強するとともに薬の容量服薬支援の方法に変更はないか確認している。医師の指示通りに服薬して頂き症状に変化があれば記録し医師に伝えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯の取り入れ、食事の手伝い、買い物などは能力に応じて役割分担している。裁縫の好きな人、お花の好きな人、手作業の好きな人に材料を用意支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	公民館行事や地域の祭りなど地域の交流の場に参加している。家族との外出、墓参り等家族の協力で外出する機会もある。音楽会、花見は全員で出かけられるように支援している。	近くの古墳や公園に散歩に出かけたり、スーパーへ買い物に出かけたりしている。歌の会や体操などの公民館教室へ定期的に参加する利用者もいる。また、事業所前の掃除や中庭の草花の手入れも日常的に行っている。全員で車を使って花見に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在手元のお金を持っておられる方はいないが、買い物などの際に支払いを職員と一緒にしていたり、お金を使うことの支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用をされる際にはスタッフがお手伝いさせて頂きゆっくり話してもらっている。季節の便り行事案内など散歩時一緒に投函している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆の集まるリビングには思い思いに過ごしていただけるようソファ椅子を置いて、お気に入りの場所を確保している。入居者様と一緒に季節の野菜や花を中庭に植えている。	玄関を入ると広い居間があり、廊下に沿ってコの字型に居室が配置されている。内側に広い中庭があって、いろいろな樹木が植えられ居間から季節を感じるができる。古い民家の良さを残しつつ居間や廊下の段差をなくし、生活しやすい工夫がなされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるようソファを椅子を置いてテレビを見たり中庭を見たり、お話をしたり気の合った方々と楽しく過ごされている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ慣れ親しんだ家具を持参していただき、居室配置も入居者様と家族が相談しお話を伺いながら住み慣れた環境に近づけている。	各居室の扉には大きな表札が貼られる。古い民家を活用しているので、各居室はすべて大きさや形が異なるが、家庭的でぬくもりが感じられる。居室内に使い慣れたベッドや筆筒、テレビや椅子などが置かれ、趣味で作られた作品などが飾られて居心地よい工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止めや手すりを設置して入居者様の状態に合わせるように工夫している、トイレ表札もわかりやすい文字で表示を掲げている。		